町長室からこんにちは No.12

いじめについて

一宮町長
馬淵 昌也

1980年代に東京都中野区で、「葬式ごっこ」事件がありました。中学生の男子がいじめられて、自殺した痛ましい事件でした。当時、大変な社会的反響を呼び、どうしたらいじめをなくせるか、という問題が大いに議論されました。それから30年余りが経ちましたが、残念ながら、事態は一向に好転していないことは明らかです。横浜、仙台、取手、いじめにまつわる悲しい話にはきりがありません。

先日、教育委員会の皆様に、私のいじめに関する見解をお話しさせて頂きました。私は、いじめにつながる気持ちは、人間の自己防衛本能に関わっているので、根本的にはなくすことはできないと思っています。しかし、人間はその気持ちを自覚的にコントロールできます。

どこの世界にも気が合わない人はいるでしょう。ならば、いじめてもいいのでしょうか？いじめなくとも、「適正な距離をとる」という選択があります。大人はそうして社会の中で、多くの人とうまく共存しています。学校の中でも、これを最低限のガイドラインとして守ってゆくべきだと思うのです。

私は、いじめそれ自体が「悪」であると考えます。いじめは、してはいけないのです。これを、社会の中で徹底してゆくべきだと思います。「いじめられるのには、それなりの原因がある、いじめられる方も悪いのだ」という議論があります。私はこれには決して賛同しません。理由はあるでしょう。しかし、理由如何を問わず、いじめはいけないのです。いじめずに、お互いを尊重するかたちで、適度に距離を取って接してゆけばいいのです。その上で、仲良くするように誘導できれば、理想的でしょう。しかし、気が合わなければ、まずはお互いが不愉快にならない程度の距離をとり、決していじめないということから徹底してゆくべきだと考えます。

私は、いじめられる側を守ることを第一の原則とします。いじめる側には、いじめなくてはならない理由などないからです。わが町では、「いじめはいけない」「いじめはやめさせる」ということを大原則として参ります。